

2023 年 生活経営学部会 夏期セミナー・総会 プログラム

ご案内

下記の要領で、2023 年生活経営学部会夏期セミナー(公開セミナー・自由論題報告)・総会を開催いたします。

多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

テーマ：「隠れた貧困」の諸相と生活経営学への期待

日時：2023 年 8 月 24 日 (木) 9:30~17:00

方法：オンライン zoom meeting (開催校：昭和女子大学)

Zoom ミーティング ID：815 0792 5757

パスコード：616840

参加費： 無料

*一般参加者は公開セミナーのみ参加可能です。

公開セミナーは、一般社団法人日本家政学会の活動助成を受けて開催します。
登壇者・発言者以外の方は、ビデオカメラオフ、マイクオフでご参加ください。
画面のスクリーンショット、録画・録音は固くお断りいたします。

一般社団法人 日本家政学会 生活経営学部会

生活経営学部会事務局

〒112-8681 文京区目白台 2-8-1

日本女子大学家政学部 天野晴子研究室

E-mail: jshe-frm@jshe-frm.jp

ホームページ <https://www.jshe-frm.jp/>



<夏期セミナー 開催の趣旨>

貧困に関する研究は、社会政策や社会福祉学を中心に経済学、社会学領域にもまたがりながら展開され、2015年には貧困研究会が日本学術会議から日本学術会議協力学術研究団体として指定されるなど、学会活動も盛んである。他方、生活経営学領域においては、生活者が家庭内外の資源をマネジメントする主体であるとして、不安定雇用や貧困、社会的孤立などを背景とした生活困難に対する支援について、2013年「生活経営学におけるケイパビリティ・アプローチ」、2014年「総合的な生活理解と生活支援」、2015年「生活経営学の理論と方法による生活支援現場への貢献」等と、毎年のセミナーでも議論を重ねてきた。しかし、領域を横断しての学術交流にはさらなる可能性があるのではないだろうか。とくに、貧困が世帯を単位として測定されることで見えにくい「隠れた貧困」に着目してみると、ジェンダーや家族構成による様々な「貧困」のあらわれ方の違いが浮かび上がろう。そこで本企画では、生活経営学と様々な領域で蓄積されてきた貧困研究の対話の機会とし、それらをつうじて生活経営学のアプローチについても検討してみたい。

基調講演は、長年貧困研究の第一線を牽引してきた岡部卓氏（明治大学教授）に、貧困や生活困窮者支援の系譜と、その中で生活というものがいかに捉えられてきたのかをお話いただく。シンポジウムでは、貧困とジェンダーをテーマに精力的に研究を積まれた丸山里美氏（京都大学准教授）に、世帯単位での把握で見落とされやすい貧困についてご報告いただく。大竹美登利氏（東京学芸大学名誉教授）には、生活経営学の理論と実践をベースとし、生活者自立支援事業家計改善支援の相談現場からのお話をしていただく。ご報告と議論をもとに、貧困や生活困窮に関して生活経営学がなすうる今後の貢献を検討したい。

<日 程>

- 9:00～ zoom 入室開始
9:30～9:40 開会挨拶
9:40～11:10 自由論題報告 ※発表 15 分・質疑応答 6 分

第 1 報告 (9:40～10:01)

「生理の貧困」をめぐる台湾の取り組み —— 「小紅帽」と「小紅厝月経博物館」
久木元真吾（帝京大学）

第 2 報告 (10:02～10:23)

夫の料理実施とその関連要因～夫への働きかけに着目して～
石橋愛架（鹿児島大学）

第3報告 (10:24~10:45)

ゴミ問題からSDGsと家政学とのつながりを探るー「ゴミから考える生活スタイルの見直し」をテーマにした事例集よりー

○花輪由樹(金沢大学)・荒井紀子(福井大学(元))・尾島恭子(金沢大学)
小田奈緒美(金城学院大学)・恒川日出美(金城学院大学(研))・南 有哲
(三重短期大学)・三輪聖子(岐阜女子大学)・室雅子(椋山女学園大学)・
吉本敏子(三重大学(元))

第4報告 (10:46~11:07)

家政学専門家は“豊かな生活”をどう描くか

～生活把握の指標づくりに向けての試案～(仮)

○重川純子(埼玉大学)・宮崎陽子(羽衣国際大学)・小倉育代(大阪教育大学
(非))・工藤由貴子(和洋女子大学)・岸本幸臣(大阪教育大学(名))

(休憩)

11:25~12:20 総会

(休憩)

【公開セミナー】 (zoom入室開始 13:00~)

13:20~13:25 趣旨説明

13:25~14:25 基調講演 岡部卓氏(明治大学)
「貧困研究の系譜と生活」

14:25~14:35 質疑応答

(休憩)

14:45~17:00 シンポジウム

14:45~15:15 パネリスト報告① 丸山里美氏(京都大学)
「世帯のなかに隠れた貧困 ジェンダーと世帯内資源配分に着目して」

15:15~15:45 パネリスト報告② 大竹美登利氏(東京学芸大学(名))
「生活者自立支援事業家計改善支援の相談から見た貧困の諸相」

15:45~16:00 論点整理/コメント 斎藤悦子氏(お茶の水女子大学)

(休憩)

16:15~16:55 質疑応答・総括討論

16:55~17:00 閉会の辞

【プロフィール】

岡部 卓（おかべ たく）氏

明治大学公共政策大学院教授。専門は社会保障論、社会福祉論。日本社会事業大学卒、明治学院大学大学院社会学研究科修士課程修了。修了後、自治体職員として福祉業務に携わる。その後日本社会事業大学・日本社会事業学校教員、東京都立大学助教授・教授を経て現職。社会福祉制度を中心として研究・社会的活動を行う。社会保障審議会委員（厚生労働省）、東京都社会福祉協議会理事など審議会・委員会委員などを務めている。著書には、『生活困窮者自立支援—支援の考え方・制度解説・支援方法』（編著、中央法規、2018）、『生活保護ソーシャルワークはいまより良い実践を目指して—』（共編著、ミネルヴァ書房、2017）など多数。

論文には、「分断化された『暮らし』の修復を社会福祉はどう担うか」『社会福祉研究』第139号、鉄道弘済会、2020.12 など。

丸山 里美（まるやま さとみ）氏

京都大学大学院文学研究科准教授。専門は社会学、ジェンダー研究。京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学専修研究指導認定退学・博士（文学）。『貧困研究』編集委員、『ソシオロジ』編集委員を歴任。

著書には『女性ホームレスとして生きる—貧困と排除の社会学〔増補新装版〕』（世界思想社、2021年）、『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』（有斐閣、2016年、共著）、「世帯内資源配分研究にみる「世帯のなかに隠れた貧困」」『大原社会問題研究所雑誌』739: 8-21（2020年）など。

大竹 美登利（おおたけ みどり）氏

東京学芸大学名誉教授。専門は生活経営学、家庭科教育。東京学芸大学卒、博士(学術) 東京学芸大学副学長、東京学芸大学附属小金井小学校校長、(一社)日本家政学会会長、日本家庭科教育学会会長、日本学術会議代表幹事、消費者庁「消費者教育推進会議」主査代理などを歴任。現在生活困窮者支援制度家計改善支援員。

著書には『大都市雇用労働者夫妻の生活時間に見る男女平等』（近代文芸社、1997）。大竹美登利他編著『小学校家庭科教育法』（建帛社、2018）、大竹美登利他編著『初等家庭科の研究—指導力につなげる専門性の育成』（萌文書林、2018）、大竹美登利監修『安心して生きる・働く・学ぶ—高校家庭科からの発信—』（開隆堂出版、2012）など。